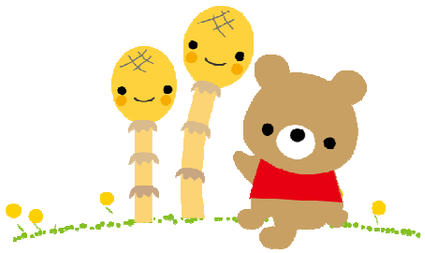
図書館だより No. 1

平成 25 年 4 月 26 日発行



1年生のみなさんへ初めての図書館だよりです。月に一度発行する図書館だよりでは、様々な本の紹介や図書館からの情報を発信していきますので、毎月チェックしてくださいね。

さて、新学期が始まり、もうすぐ1ヶ月が経ちます。みなさん新しい環境での生活にはもう慣れましたか。どのクラスも来週の合唱祭に向けて、練習に力が入っているように感じられます。新しいクラスでの初めての行事ですから、どのクラスも本番では満足のいく歌声を出せることを祈っています。

この1ヶ月で心も体も思っている以上に疲労を溜めていることかと思います。明日からの三連休、そして、5月のゴールデンウィークで少し休憩を入れたいところですね。心地よい気候の中、どこかへ出かけるもよし、家の中でのんびりくつろぐのもよし、自分に合った気分転換をしましょう。そして、まだまだ始まったばかりの1学期を頑張っていきましょう。

歌声合わせて＊

913.6-ミ 『よろこびの歌』　宮下 奈都 ‖ 著　実業之日本社

バイオリニストの母親を持ちながらも、音大付属への受験に失敗し、普通科の高校へ進学した玲。音楽とは離れ、ただぼんやりと学校生活を過ごしていたが、合唱コンクールで指揮者に推薦されてしまう。やる気のないクラスメイトに反し、自分だけが熱くなってしまい、ひとつにまとまらないクラスは本番でも力を発揮できなかった。 しかし、玲はマラソン大会という音楽とはまったく関係のない行事の中で、クラスメイトのある行動に触れ、歌うことの意味に気づくことになる（「よろこびの歌」）。玲の物語から続いて、クラスメイトひとりひとりが主人公となり、それぞれの心の葛藤が描かれていく短編集です。

気分転換にいかが＊

291-ル 『高尾山』　JTBパブリッシング

ミシュランガイドで三ツ星の観光地に選ばれている高尾山。気軽に登山を楽しめる山となっており、登ってみたいと思っている人はもちろん、登ったことのある人も多いのではないでしょうか。せっかく登るのなら、その前に高尾山の全貌を知り、十二分に楽しんできましょう。そのためにおすすめなのが、このガイドブック。いくつもある山道それぞれの特徴が紹介されている他、山の見どころとなる名所、登山の楽しみになる高尾山の名物など、高尾山の情報がフルに載っています。この新緑の爽やかな季節の中、高尾山で気持ちをリフレッシュしてみてはいかがでしょう。

図書館の開館と貸出について

１年生もだんだんと図書館の利用に慣れてきたでしょうか。3年間を通し、図書館をフル活用してください。ここで、2，3年生も含めた全校生徒のみなさんにもう一度、図書館の開館と貸出について案内します。

開 館 日：月曜～土曜　※ 日・祝日は休館です。

開館時間：通常　8：50～18：45（※月曜は10：15より開館）

考査1週間前　8：50～17：30

考査中　8：50～17：00

土曜日　8：50～17：00

※学校行事及び長期休暇中の開館に関しては、その都度、お知らせをします。

貸出冊数：3冊　**貸出期間**：新着本＊1週間　その他＊2週間　（雑誌も最新号以外は貸出可です）

学級文庫の本の返却について

昨年度、学級文庫として各クラスに貸出していた本のうち、以下の本がまだ未返却となっています。手元に持っている人は一度図書館カウンターへ持ってきてください。ご協力をお願い致します。

請求記号	書名	著者名
010-タ	図書館へ行こう	田中共子 // 著
210.1-チ	あらすじとイラストでわかる日本史	知的発見！探検隊 // 編著
367-ミ	夜回り先生	水谷修 // 著
493-コ	上手に傷つくためのレッスン	香山リカ // 著
816-ヒ	小論文これだけ！	樋口裕一 // 著
837-P	Babe The Sheep－Pig	Dick King－Smith
933-ク	ホエール・トーク	クリス・クラッチャー // 著　金原瑞人 // 訳 西田登 // 訳
936-ヘ	みじかい命を抱きしめて	ロリー・ヘギ // 著
936-ポ	タイタニック愛の物語	ギル・ポール // 著 ブルース・ベヴァリッジ // 著 赤尾秀子 // 訳
974-ア	他人をほめる人、けなす人	フランチェスコ・アルベローニ // 著 大久保昭男 // 訳
B159-マ	マーフィー「ツイてる女」練習帳	マーフィー“無限の力”研究会 // 著
B913.6-ア	死者の学園祭	赤川次郎 // 著
B913.6-サ	最後の恋 つまり、自分史上最高の恋。	阿川佐和子 // 著 角田光代 // 著　他

世界を旅する１２ヶ月　～日本～

気軽に海外旅行が楽しめるようになった現代、本校でも今年から修学旅行の行き先がオーストラリアとなります。また、その他にも希望者を対象としたハワイへの語学研修旅行、イタリアへの芸術研修旅行も行なっており、世界が身近に感じられるようになりました。そこで今年度の図書館だよりでは世界の様々な国にスポットを当てて、その国がキーワードとなった本を紹介していきます。題して「世界を旅する12ヶ月」！！この特集を通じて、みなさんが今以上に世界に興味を広げてくれることを期待しています。

では初回となる第1回目は私たちの暮らす日本から始めたいと思います。

きちんと知っておきたい日本のしきたり

382-ニ 『日本のしきたりがよくわかる本』　日本の暮らし研究会 ‖ 著　PHP研究所

知っているようで、実は知らないでいる日本のしきたり。そのしきたりがこの長い歴史の中でどう生まれてきたのかという原点の部分から知ることのできる本です。

また、普段、何げなく行なっている年中行事や作法には、願いや相手への思いやりなど、深い意味が込められているのだということを改めて学ぶことができます。中には、初めて知ることもあるかと思いますので、新しい発見を楽しみながら読んでみてください。きっとこれを読んだ後には、日本ならではの年中行事を今までよりも大切にできるようになると思います。

また、作法に関することは、社会人となった時に役立つ事柄が多いです。今の内からしっかりと覚えておきましょう。

日本を代表する作家といえば

B913.6-ム 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』　村上 春樹 ‖ 著　新潮社

この本では、私の物語と僕の物語、ふたつの全く異なる物語が同時進行していきます。

暗号を組み立てる計算士として働く私。ある老人の依頼で引き受けた仕事をきっかけに私は理不尽な災難に巻き込まれていく。災難続きの果てに知ったのは、自分の意識の核の部分にもう一つ思考回路が作られていること。受け止めがたい事実と残された僅かな時間を私はどう生きるのか。

長大な壁に囲まれた街で暮らし始めた僕。以前の記憶はなく、街では“夢読み”の仕事を与えられ、頭骨に収められた夢を読む。傷つけあうことのない街に心地よさを感じながらも、「一緒にもとの世界へ戻ろう」と誘う自分の影の言葉に、自分が求めるのはどちらの世界なのかを悩む。

この異なるふたつの物語が進むにつれ、少しずつ重なりを見せ始めます。それぞれからキーワードを拾い、物語を解きほぐしながらその先を想像して読んでみてください。

日本の古都を訪れる

291.6-ジ 『京都でやっておきたい100のこと』　JTBパブリッシング

ふと行きたくなる町、京都。見どころも多く、楽しみ方も様々に詰まっていて、一度だけではその魅力の全てを体験し尽くせません。そんな京都において、“これはやっておくべき”という100個の事柄が紹介されています。

四季折々の風景、趣の深い寺社や仏像など、これぞ京都！という名所の紹介から、京料理や京スィーツなど、味わう京都の情報もたくさん載っています。あのスターバックスも京都三条大橋店では夏になると川床にテラス席ができるのだそう！日本の美しさ、そして、京都ならではの楽しみをたくさん教えてくれる1冊です。「そうだ、京都行こう」という有名な一言がありますが、これを読んだ後はまさにそんな気分になります。

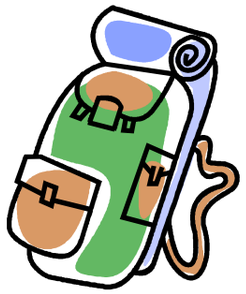
伝統芸能

774-フ 『歌舞伎がわかる本』　双葉社

歌舞伎座が新しくなったことで、最近ニュースでもよく耳にするようになった“　歌舞伎”。歌舞伎は日本の伝統芸能のひとつです。江戸時代から人々に愛されてきた歌舞伎とはどんなもので、どんな楽しみ方ができるものなのでしょうか。

この本では、歌舞伎をまったく知らない人のために演目のあらすじや座席の選び方、歌舞伎の魅力などが写真やイラストを多く用いて紹介されているだけでなく、歌舞伎が好き！という人が読んでも満足できる役者の着物の模様や髪形、舞台の仕掛けなどの「歌舞伎って奥が深い！」と改めて感じるような小ネタも充実しています。それだけ歌舞伎のポイントを詳しく知ることができながら、手軽に読める厚さの本だというのもこの本の魅力です。

図書館司書の「今月はこの本を読みました」

今年度の特集「世界を旅する12ヶ月」を始めるにあたって、ふと今月は**沢木耕太郎**さんの著書『**深夜特急2　マレー半島・シンガポール**』(**915.6-サ　新潮社**)を読みました。1巻は20歳そこそこの頃に読んだのですが、数年ぶりに続きの2巻を読むと、昔感じたよりももっと強く「旅がしたい！」という衝動を自分の中に感じました。本当に読む人をそういう気持ちにさせる力を持っている本なんです。

『深夜特急』は著者の沢木さんが自身の旅を元に書いた紀行文です。仕事を放りだし、ありったけのお金をかき集めて、海外へ飛び出した沢木さんは、インドのデリーから様々な国を渡りながらイギリスのロンドンへと向かいます。移動手段はバス、宿はとにかく安く、地図は持たず心の赴くまま進んでいくという旅からは訪れる国々のありのままの姿が伝わってきます。綺麗なだけでない、騒音が多く、刺激的な旅の中で、様々な人に触れ、自分の心に触れる。こういう旅が人生には必要なのかなと思いながら、読んでいました。さあ、次は3巻だ！